

# 薬剤耐性(AMR)対策における薬剤師の役割

## —多職種の協働(和)で取り組むAMR対策

座長  
日本薬剤師会常務理事  
和歌山県薬剤師会常務理事

橋場元  
徳田純一

2015年のWHO総会において「薬剤耐性に対するグローバル・アクション・プラン」が採択され、G7エルマウ・サミットでは、G7諸国が協調して薬剤耐性菌対策に取り組む方針が盛り込まれた。

日本では、16年に公表された「薬剤耐性(AMR)対策アクションプラン」が4月に改訂され、薬剤耐性菌の増加を防ぐために、「普及啓発・教育」「動向調査・監視」「感染予防・管理」「抗微生物剤の適正使用」「研究開発・創薬」「国際協力」の六つの分野で、さらなる目標と具体的な取り組みが示された。

さらに、5月に開催されたG7広島サミットでは、「薬剤耐性(AMR)の世界的かつ急速な拡大を認識しつつ、24年のAMRに関する国連総会ハイレベル会合に向けて、抗菌薬の研究開発を加速させるためのプッシュ型お

よびプル型のインセンティブを探索し、実施すると共に、抗菌薬へのアクセスおよび抗菌薬を慎重かつ適切に使用するための管理を促進することに引き続きコミットする」と宣言された。

世界中で抗菌薬が薬効を示さない耐性菌群が急激に増大している状況であり、これを克服するためには、ワンヘルスアプローチの考えのもと、AMR対策は全世界的な取り組みとして推進することが求められている。

本分科会では、AMR対策の世界における取り組みの状況および改訂された「薬剤耐性対策アクションプラン2023-2027」についてご解説いただくと共に、AMR対策における薬局薬剤師の地域における役割、AMR対策につながる具体的な抗菌薬の選択および投与設計、そして、薬局において薬剤師ができるAMR対策の取り組み事例についてご講演いただく。

各演者のご講演により、AMR対策の見解が深まり、薬剤師の役割についてさらにご理解いただくと共に、現場での実践を推進するための一助となれば幸いです。

(橋場元)

# 分科会の見どころ・聞きどころ

関連記事

9~10、15~18面

## 海外の医療制度と薬剤師業務

座長  
日本薬剤師会副会長  
和歌山県薬剤師会常務理事

安部好弘  
西山加津

薬局・薬剤師の業務はいかにあるべきか。現在、厚生労働省の検討会等において、対人業務のさらなる充実、医療のDX推進(電子処方箋・オンライン服薬指導)への対応、タスクシフト・シェアへの参画、確実な医薬品供給体制の構築、リフィル処方箋利用推進のなど、多岐にわたる議論が進められている。

本分科会では、米国、英国、独国、台湾における薬局・薬剤師業務の概要をご紹介いただく。各国の医療提供制度・歴史・文化の違いなどを踏まえて、わが国の薬剤師が今後どのように取り組みを行うべきか、事例を通じてイメージを広げるための議論を展開す

る。  
新型コロナパンデミックは、国家経済安全保障・医療・医薬品提供体制のあり方に大きな変革をもたらし、薬局・薬剤師の業務・役割もその変化に対応することが求められている。わが国では、自宅・宿泊施設療養者への治療薬供給、ワクチン接種の予診・接種後の状態観察、オンライン服薬指導、医療用抗原検査キットの供給・無料検査事業などの取り組みが実施され、その経験と実績を踏まえ中長期的な観点での体制整備を進めることが求められている。

分科会では、各国でのこれまでの具体的なコロナ対応事例、ビヨンド・コロナに向け求められている業務変革や課題等を国際的な視点から議論することにより、わが国の薬局・薬剤師がプロフェッションとして取り組むべき方向性を展望したい。

(安部好弘)

## 薬剤師によるフレイル予防

座長  
日本薬剤師会理事  
和歌山県薬剤師会常務理事

舟越亮寛  
坂東幹彦

超高齢社会であるわが国の課題として、高齢者のフレイル(虚弱)を予防することが挙げられる。加齢によるサルコペニア(筋肉低下による運動機能低下)、痛み→引きこもり→社会的な孤立→栄養低下→筋肉低下というフレイル・サイクル、悪循環に陥る。また、転倒や骨折あるいは慢性疾患の悪化をきっかけとして要介護状態になる可能性が高くなり、このサイクルを断ち切ることが重要であり、薬物療法と並行して栄養管理、嚥下管理、社会参加へのケアが必要となる。高齢者は何らかの薬を服用していることも多く、薬剤師が関与することが期待されている。

具体的には、薬剤師は薬剤の有害事象の可能性や発現のモニタリング、適正使用のための服薬管理方法についての情報を多職種と共有し、薬剤の有害事象の予防、早期発見と対応、代替処

方の提案に関わる役割を担う。処方についてはポリファーマシー状態の解消、合剤の活用、口腔崩壊錠の活用も製剤学の知識を有している薬剤師ならではの関与も大切である。その際には医療、介護の多職種専門職との連携が欠かせない。

本分科会では、薬剤師の視点前に医師、栄養士といった多職種専門職の視点、地域連携のあり方を前半に紹介いただき、後半に1地域での行政、薬剤師会、薬局での事例を紹介いただく。

健康サポート薬局制度が2017年に発足後、その役割として薬局から地域住民への健康情報の発信が求められている。近隣の生活者向けにフレイルの予防のための運動や食事のセミナーなどを行いながら、かかりつけ薬剤師として、一人ひとりの患者さんに目を向け、薬のみならず様々な相談を受けながら必要に応じて受診勧奨や主治医へ服薬状況報告を行うこともわが国の課題解決につながるものであり、各地域で推進していくフレイル予防についての理解を深めていただければ幸いです。

(舟越亮寛)

## 医療DXのビジョンと薬局の業務

座長  
日本薬剤師会常務理事  
日本薬剤師会理事

原口亨  
田中千尋

長年、議論準備が行われてきた電子処方箋は、今年1月から正式に運用が開始された。また、以前から導入が進められてきたオンライン資格確認についても4月から原則義務化となった。

国は2022年10月に医療分野でのDX(デジタルトランスフォーメーション)を通じたサービスの効率化・質の向上を実現することにより、国民の保健医療の向上を図ると共に、最適な医療を実現するための基盤整備を推進するため、関連する施策の進捗状況等を共有・検証すること等を目的として、内閣総理大臣を本部長とする医療DX推進本部を設置し、本格的に対応を始めている。

さて、これらの議論において6月に医療DXの推進に関する工程表が示された。工程表にはマイナンバーカードの健康保険証の一体化の加速等、全国

医療情報プラットフォームの構築、電子カルテ情報の標準化等、診療報酬改定DX、医療DXの実施主体などが含まれている。

全国医療情報プラットフォームはオンライン資格確認等システムを拡充し、分散している医療情報等の共有を進めるものであり、この情報には電子処方箋に伴う処方・調剤情報等も含まれている。合わせて、医療機関・薬局間での共有やマイナポータルでの閲覧可能な医療情報の拡大のためには、電子処方箋のさらなる普及に加え、やり取りする情報の標準化が必要となる。

本分科会では、医療DXの進展に伴い薬剤師や他の医療従事者がどのような情報を得ることが可能となり、また、そのメリットや現時点での問題点、薬剤師として必要な視点やスキルについて、総論的内容に加え実際の取り組み事例を含め、ご講演いただく。

その後、ディスカッションや質疑応答等を含め、テクノロジーを活用した新しい時代の薬剤師や薬剤師業務について意見交換できればと考えている。

(原口亨)

### 湘南医療大学 薬学部 (6年制、定員130名)

試験区分	出願期間	試験日	結果発表日
総合型選抜	9月1日(金)~9月22日(金)	10月1日(日)	11月1日(水)
学校推薦型選抜	I期(一般公募・指定校)	10月6日(金)~10月20日(金)	①10月29日(日) ②11月12日(日)
	II期(一般公募・指定校)	11月20日(月)~12月4日(月)	12月10日(日)
一般選抜	III期(一般公募)	12月25日(月)~1月15日(月)	2024年1月21日(日)
	I期	2024年1月4日(木)~2024年1月19日(金)	①1月27日(土) ②1月28日(日) ③1月29日(日)
	II期	1月29日(月)~2月7日(水)	①2月11日(日) ②2月12日(月・祝)
大学入学共通テスト利用選抜	III期	2月26日(月)~3月6日(水)	3月9日(土)
	I期	2024年1月4日(木)~2024年1月19日(金)	2月7日(水)
	II期	2月1日(木)~2月22日(木)	2月28日(水)
	III期	2月26日(月)~3月15日(金)	3月19日(火)

特待生制度(授業料全額又は半額免除)導入!総合型・学校推薦型I期で受験可能

資料請求問合せ先  
湘南医療大学 入試事務室 TEL 045-821-0115  
〒244-0806 神奈川県横浜市戸塚区上品濃 16-48  
nyushi@sums.ac.jp



**解熱鎮痛薬**

## ロキソプロフェン錠「クニヒロ」

**頭痛、生理痛に**



第1類医薬品

**皇漢堂製薬株式会社** 尼崎市長洲本通2丁目8番27号  
TEL 06-6482-5115(代)

ロキソプロフェン錠「クニヒロ」は、プロスタグランジンの生成を抑え、痛みや熱に効果をあらわすロキソプロフェンナトリウム水和物を成分とした錠剤です。

効能効果  
○頭痛・月経痛(生理痛)・歯痛・抜歯後の疼痛・咽喉痛・腰痛・関節痛・神経痛・筋肉痛・肩こり痛・耳痛・打撲痛・骨折痛・ねんざ痛・外傷痛の鎮痛  
○悪寒・発熱時の解熱